

がん患者・家族・一般消費者を対象とした がんゲノム医療に関する調査 2021

Topics

- ✓ がん遺伝子パネル検査の保険適応取得2年後時点において、がんゲノム医療について「**見聞きしたことがあり、内容を知っている**」と回答したのは**7%**、実際に検査を受けたことがあると回答したのは患者・家族1169名*1のうち**2%**であり、認知・実施ともに昨年調査から大きな変化は見られなかった。
- ✓ 患者さんのがん種別に浸透状況を見ると、**婦人科がん**（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん）や**希少がん***2で認知度が高く、実際に遺伝子パネル検査を実施したと回答した割合も、これらのがんではその他のがんに比べて高い傾向であった。
- ✓ （回答者数が少ないため参考程度ではあるが、）実際に遺伝子パネル検査を受けた患者・家族のうち、検査に対して「非常に満足」「満足」と回答したのは**71%**。満足している理由として「安心できた」「治療は見つからなかったが、主治医は治療方法の模索に参考になっている」などの声が挙げられた。

*1 本調査の対象には進行再発の患者・家族だけでなく、がんと診断されたことがある早期の患者なども含まれる
*2 希少がん：脳腫瘍、舌がん、唾液腺がん、皮膚がん、悪性黒色腫、悪性骨軟部腫瘍、原発不明がんを含む

調査背景・目的

- ✓ 2019年6月に遺伝子パネル検査が保険適応を取得し、本邦におけるがんゲノム医療がスタートしてから約2年半が経過した。
- ✓ がん患者や家族、一般消費者へどの程度ゲノム医療が浸透しているのか、また、どのようなことを期待・懸念しているのか等を把握するために調査を行った。

調査概要

調査方法 : インターネット調査（全国）
 使用パネル : インテージ キューモニター
 調査期間 : 2021年8月30日～9月3日
 対象 : 患者...現在がんの治療で通院している／定期的に診察に通っている
 家族...現在、同居している家族ががんの治療で通院している／定期的に診察に通っている
 一般消費者...がんの既往歴がない ※がん患者家族を除く

有効回答数：

TOTAL	がん患者	がん患者の同居家族	一般消費者
1703s	636s	533s	534s

※脳腫瘍、頭頸部がん、舌がん、甲状腺がん、唾液腺がん、肺がん、乳がん、食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆のうがん、胆管がん、膵臓がん、腎細胞がん、腎盂・尿管がん、膀胱がん、精巣がん、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、皮膚がん、悪性黒色腫、悪性骨軟部腫瘍、小児がん、原発不明がん、血液がん など

調査結果 ※一部抜粋

認知状況

※ 簡易資料を提示して認知度を聴取

Q. あなたはこれまでに「がんゲノム医療」「がん遺伝子パネル検査」について見聞きしたことはありますか。

がん遺伝子パネル検査 実施状況

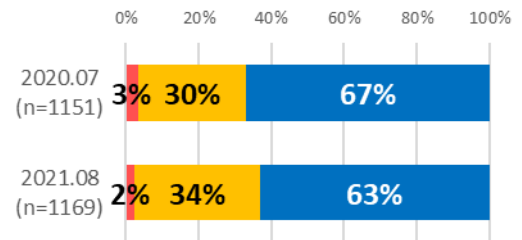
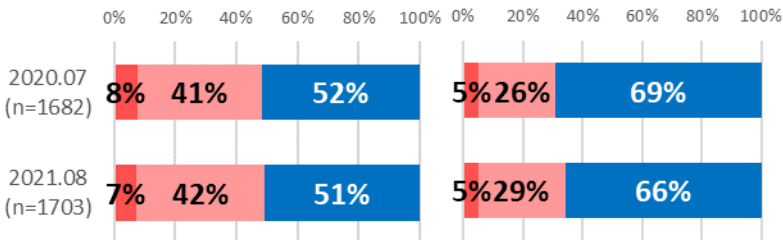
Q. あなたご自身、または同居している家族は、これまでにがん遺伝子パネル検査を受けたことがありますか。

[回答：患者、家族のみ]

<がんゲノム医療> <がん遺伝子パネル検査>

■ 見聞きしたことがあり 内容を知っている
 ■ 見聞きしたことがあるが 内容は詳しく知らない
 ■ 見聞きしたことはない

■ 自身/家族が 検査を受けたことがある
 ■ 見聞きしたことがあるが 検査を受けたことはない
 ■ 見聞きしたことはない



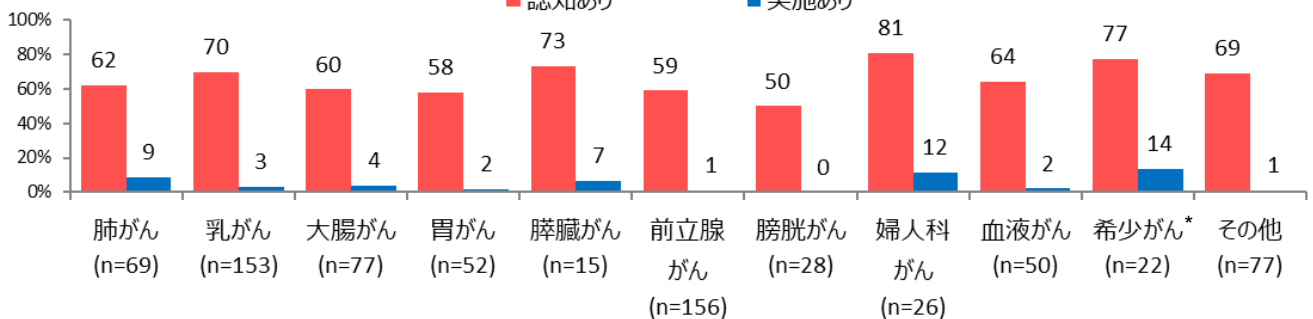
がん種別の認知状況・実施状況

[回答：患者のみ]

※認知あり：「見聞きあり&内容を知っている」+「見聞きあり&内容は詳しく知らない」合計

Q. あなたはこれまでに「がんゲノム医療」「がん遺伝子パネル検査」について見聞きしたことはありますか。あなたご自身、または同居している家族は、これまでにがん遺伝子パネル検査を受けたことがありますか。

*希少がん：脳腫瘍、舌がん、唾液腺がん、皮膚がん、悪性黒色腫、悪性骨軟部腫瘍、原発不明がん

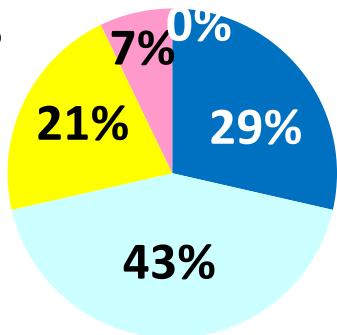


遺伝子パネル検査を受けた満足度

Q. 遺伝子パネル検査を受けたことについて、あなたはどの程度満足していますか。以下のうちあてはまるものをひとつお知らせください。

[回答：遺伝子パネル検査実施あり] ※n数が少ないため参考データである点に注意

■ 非常に満足している
 ■ 満足している
 ■ どちらともいえない
 ■ 満足していない
 ■ 全く満足していない
 (n=14)



<満足度の理由 一部抜粋>

「非常に満足している」「満足している」

- ・ 安心することが出来た (患者)
- ・ 今生きていられるのもパネル検査のおかげ (患者)
- ・ 新しい治療方法は見つからなかったけど、主治医は治療方法の模索に参考になっていると思う (家族)

「どちらともいえない」

- ・ それがベストなのかは疑問 (患者)
- ・ まだ結果が出ていないので (患者)

医師から説明を受けたが遺伝子パネル検査を受けなかった理由

Q. 医師からがん遺伝子パネル検査の説明はあったが、検査を実施しなかった理由としてあてはまるものをお知らせください。

[回答：説明あり&検査実施なし] (n=9)

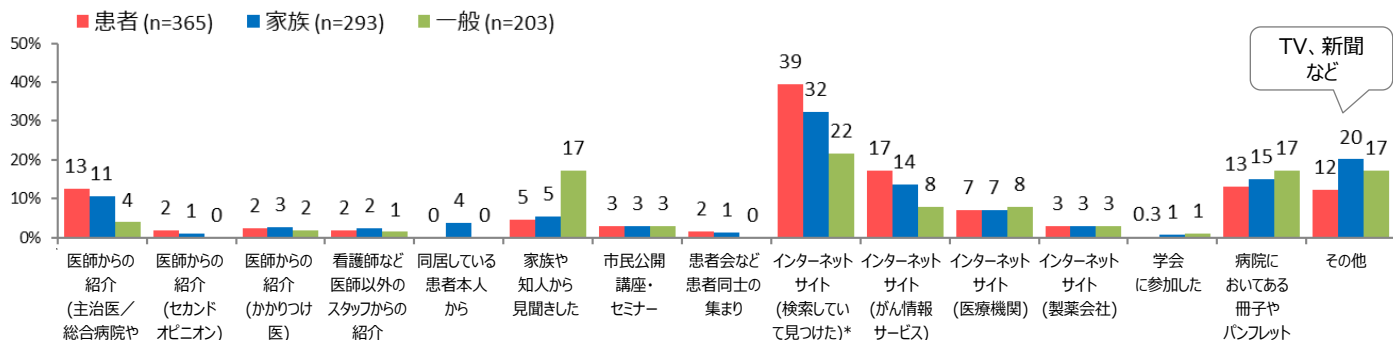
※n数が少ないため参考データである点に注意

- ・ 治療が見つかる可能性は少ないと言われた/思ったから [44%]
- ・ 検査費用が高額であったから [44%]
- ・ 検査を受けたかったが、検体を取るための再生検を受けたくなかったから [33%]

がん遺伝子パネル検査に関する認知経路

[回答：がんゲノム医療/がん遺伝子パネル検査認知あり]

Q.あなたは「がんゲノム医療」や「がん遺伝子パネル検査」について、どのような経緯で見聞きましたか。以下のうち、あてはまるものをすべてお知らせください。



*がんについて検索、あるいは治療法を検索している見つけた

考察

- ✓ がん遺伝子パネル検査について見聞きたことがあると回答した割合は34%と、昨年調査と比較して大きく増加したわけではなかった。認知経路についても前回調査と同様であった。
- ✓ 検査の対象となる患者さんが保険適応の制度上限定されていることから、医師経由の認知は少なく患者さんでも1割程度であり、自身でインターネット等で検索する中で情報にたどり着くというケースが多い現状がうかがえる。がん種によって認知度が異なるのもおそらく同様な背景があり、希少がんなどもともとメジャーながんに比べて情報が乏しいがん種の患者さんでは、情報に対してより感度が高いことが影響していると考えられる。検査の対象となる進行再発の患者さんはもちろん、より幅広い患者さんや家族、いずれは一般の方の認知度を高めるには、おそらく受動的な媒体が望ましいことが示唆されるとともに、今後どこまで広がっていくのか動向に着目していきたい。

調査項目 ※一部抜粋

浸透度	<ul style="list-style-type: none"> ■ ゲノム医療・パネル検査 認知度 ■ パネル検査の説明を受けた・検討した・実施した経験 ■ 自身で調べた情報・媒体
マインド把握	<ul style="list-style-type: none"> ■ パネル検査に関する期待・懸念 ■ 検査を受けてみたいと思うか ■ 費用についての印象 ■ 高額療養費制度を利用した場合の費用についての印象 ■ 遺伝性腫瘍についての考え方
情報入手	<ul style="list-style-type: none"> ■ がんゲノム医療に関する情報入手経路 ■ 健康/がん治療に関する情報入手経路



データ詳細についてはお気軽にお問合せください。

「がん種別に見ると何か違いはある?」「進行再発患者では認知度は違うの?」「居住エリアでは?」 etc...

➤ ローデータ+集計データ 80万円 (税別)

※詳細分析、アウトプット作成等は別途ご相談ください。

オンコロジー領域の調査は、インテージヘルスケアへ!

本調査に関する
お問い合わせ

www.intage-healthcare.co.jp
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階 電話: 03-5294-8393 (会社代表)
メディカル・ソリューション部 オンコロジー領域専門グループ
メール: ant-onc@intage.com
担当: 安達 (あだち)・森田 (もりた)